

# 3 . 転換

## (現状と課題)

### 【世界の現状】

- 1 . Rosatom(ロシア)、COMURHEX/AREVA(仏国)、ConverDyn(米国)、 Cameco(カナダ)、NDA(BNFL)(英国)の5社で世界の転換設備容量のほぼ100%を担う。
- 2 . 現在の転換役務需要は設備容量を上回っており、需要の一部は二次供給(解体核高濃縮ウラン、民間在庫等)によって賄われていると推測されるが、今後、二次供給が減少したとしても、天然ウランの増産に合わせて柔軟に設備容量を増強することが濃縮工程と比べ容易と見込まれる。

### 【我が国の現状と課題】

- 1 . ウラン鉱石調達と同様、転換役務については完全に海外に依存している。
- 2 . 旧動燃が天然・回収ウランの転換技術を開発した成果がある。
- 3 . 現在、事業者の海外での転換役務の調達に、下記の問題を除き特段の困難は存在しない。
- 4 . 日本原燃濃縮工場向け天然ウランの転換役務提供をする上で、海外転換役務メーカーにおいて事業所敷地の狭隘さから当該敷地内で我が国向けの発送前検査実施の困難性を理由に、将来これを忌避する動きの懸念がある。(本件については、日本原燃で検討中の対応策を踏まえ、原子力安全・保安院にて対応のあり方を検討。)

### 3. 転換 (今後の対応)

1. 天然ウランを完全に海外に依存せざるを得ないこと及び転換技術が高度なものではなく比較的安価かつ短期間での導入が可能であると考えられることを勘案すれば、転換施設の国内立地については、世界的な転換需給状況に応じて判断すれば十分であり、現時点ではその必要性は低い。